



六甲高山植物園

第46回テーマ： 阪神電車と六甲山

講演内容

- ①六甲山と私のかかわり
- ②阪神電鉄の六甲山開発の今昔
- ③高山植物園と牧野富太郎

実施日：平成19年1月20日（土）
午後1時～3時50分
場 所：六甲山YMCA
里見ホール



講師：玉起 彰三さん
たまおき しょうぞう

プロフィール

1954年生まれ。1981年阪神鉄道(株)入社。以後、同社の経営する六甲高山植物園学芸員として現在に至る。著書『六甲山博物誌』（神戸新聞総合出版センター、1997年）

整備活動で枯れ木の伐採に着手しました

午前中の近畿自然歩道の整備活動には10名が参加しました。今回は、歩道沿いの枯れ木の伐採を行いました。今まで放置され密生して、歩道を暗くしていた枯れ木や枝を伐採すると、明るく歩きやすい歩道になりました。

作業をしていると暑さを感じるほどの暖かさで、雪もなく、1月とは思えない六甲山でした。

六甲山の研究を淡々と続ける玉起さん

市民セミナーには19名が参加。六甲高山植物園の玉起さんにお話いただきました。

玉起さんは六甲山の麓で生まれ、田んぼや森で自然に親しみながら育ったそうです。高山植物を求めて日本各地の山に行ったり、六甲山の全ての登山道を踏破されたりと、研究熱心な玉起さん。ご自分の生い立ちの紹介から、六甲山の歴史などを親しみやすくお話していただきました。



交流会で記念撮影しました(真ん中 玉起さん)

阪神の六甲山経営の歴史を知った

明治以降の六甲山の歴史を紹介していただきました。阪神の六甲山の開発の歴史では、戦時中や、戦後の復興ぶり、阪神大震災のときの様子など、六甲山に関わってきた事業関係者だからこそ分かるお話を紹介していただきました。

また、高山植物園との関わりが深い、植物学者牧野富太郎博士についてもお話いただきました。

阪急・阪神の今後に注目

阪神電鉄は六甲山上の一大事業者で、今年の阪急との統合以降どのように活動されるか、山上で市民活動を行う当会にとって大きな関心事です。

3月の市民セミナーで六甲摩耶ケーブルの今西社長にも六甲山経営のお話をお願いしています。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 金 俊ケイ さん

「ニコウキスゲが満開！来てよかったあ」、家族連れやなかよしグループの笑顔が印象に残っています。お花畑を見るとだれでもが童心に戻るひとは魚釣りや似ていますね。はじめて山のお客様は、楽しい遠足施設の充実ぶりにびっくりします。その運営にうちこんできた講師先生のわかり易い話は勉強になります。リスはよく見ますしペンギンの仲間のフクロウも隠れている山に、多くの人々が訪れますように。



【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、コベルコ環境保全基金
公益信託自然保護ボランティアファンド
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金

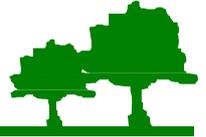
主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会



第46回テーマ：阪神電車と六甲山



第46回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:15
2. 講演：13:15～15:00
3. 交流会：15:00～15:30
4. 質疑応答：15:30～15:50

講演

- ①六甲山と私のかかわり
- ②阪神電鉄と六甲山開発の今昔
- ③高山植物園と牧野富太郎



市民セミナーの様子

講演の挨拶(玉起彰三さん)

阪神電鉄の社員として、六甲高山植物園の学芸員をしています。1年前にこのセミナーの話を受けたときには、阪急と阪神が合併するという事は想像もつきませんでした。今日は私と六甲山、阪神電車のかかわりをお話します。



玉起さん

講演内容

1. 六甲山と私のかかわり

■自然に親しんだ幼少期

私は昭和29年に当時の葺合区で生まれ、神戸で育った。小さい頃は田んぼでザリガニやウナギをとったり、山でカエルやイモリを捕まえて遊んだ。高校生で登山クラブに入って六甲山以外の山を知った。大学ではぜんぜん勉強せず、アルバイトばかり。六甲山カンツリーハウスでアルバイトをしていたとき、正社員に誘われて、大学を辞めて途中で阪神電鉄に就職した。

■高山植物を求めて日本各地へ



解説する玉起さん

植物に詳しくかったので、入社後は高山植物園の専属になった。安い給料だったが、色々な高山植物を見るために、日本各地の山に登った。人工スキー場に出稼ぎに来ていた山形の人たちと親しくなり、山形の山で何度か夏を過ごした。今、高山植物園にあるミズバショウは、私が

山形から持って帰ってきたものだ。

■六甲山の道はすべて歩いた

私は、六甲山の地図で自分の歩いたところを黒く塗っている。全てのコース、谷と尾根は端から端までみんな歩いたので地図は真っ黒になった。六甲山ほどの山は、人が踏み込んでいないところというのはないが、まだまだいろんな植物を見つけることができる。人の顔ぐらいのオオイワカガミがある穴場も見つけた。

六甲山は突っ掛けでも歩けるし、ハードなトレーニングにも使える山なので、ぜひ山歩きをされたらいいと思う。

2. 阪神電鉄の六甲山開発の今昔

■六甲山の開発のはじまり

明治28年にグルームさんが山上に別荘を建てた。どんどん外人さんが上がってきた。登山趣味も盛んになった。

明治38年に阪神電車が開業した。大石・新在家の駅前にカゴ屋ができて、登山コースになった。カゴ屋は1日に3往復することもあり、過労からか早死にする人が圧倒的に多かった。



明治時代の六甲山

■阪神の六甲山経営～阪急と阪神の競争

昭和2年に阪神は唐櫃村の共有地75万坪を160万円で買い取って開発に着手した。

その後、阪急が昭和6年に六甲山ロープウェイを開通させ、阪神は昭和7年に六甲ケーブルを開通させた。山上には回遊道路が造られ、高山植物園が昭和8年に開設された。阪急と阪神が一生懸命開発競争する時期だった。

■右肩上がりの六甲山

戦争が始まると、六甲山の施設は営業できなくなり、軍部の要請でカンツリーハウスはジャガイモ、ゴルフ場は朝鮮アサガオの栽培をさせられた。

戦後の復興を経て、昭和30年代に六甲山は開発ラッシュを迎えた。阪神も阪急も山陽電車も兵庫県・神戸市も頑張った。高山植物園は私が入社した翌年の昭和56年に入場者数が10万人を突破し、59年には約16万人まで増えた。阪神は人工スキー場で大繁盛していて、景気が一番よかった。



多くの人で賑わう六甲ケーブル上駅(戦後)

■阪神大震災のときの六甲山

平成7年の阪神大震災。地震が起きたとき、六甲山からは空がストロボをたいたように青白く光って見えて、南からゴーツという音が近づいてきたようだ。

私は裏六甲の自宅から軽自動車でなんとかカンツリーハウスまで行った。施設自体は無事だったので、道を塞いでいる石を動かしたら営業できると思っていたが、とんでもない間違いだった。

3. 高山植物園と牧野富太郎

■借金王だった牧野富太郎

牧野富太郎は東京で植物学者として業績を挙げた。経済感覚にはのんきで研究のためには借金を重ねた。大正5年の借金は3万円。昭和8年の六甲高山植物園の建設予算が4万円（今のお金で3億円以上）だったことからしても、大金なのがわかる。



牧野富太郎

■牧野富太郎と神戸のかかわり

借金がたまりすぎて、それまで集めてきた植物標本を売ることになった。この話題が朝日新聞に大きく取り上げられた。神戸の大富豪の養子で、京都大学の学生だった池長孟が標本を3万円で買い取って、牧野富太郎に寄贈した。

■牧野富太郎の六甲山での活動

寄贈の条件には、月1回神戸に来て、観察会や講演会をすることがあったので、月1回は牧野富太郎は神戸にやってくるようになった。

六甲山で採集された標本が増えていった。何度か高山植物園にも来ている。本当に指導があったのかはわからないが、高山植物園はPRには「牧野富太郎の指導により」と必ず入れた。



六甲高山植物園

質疑応答

ガーデンテラスはお店しかないのに駐車場500円は高いのでは？：そういう話は3月の今西さんのセミナーでお願いします（笑）

昔、アカハイモリを阪神電車が海外に輸出しているということを知ったが？：私はそんな話は聞いたことがありません。

グルーム祭には阪神は関係しているの？：グルーム祭は六甲ケーブル、六甲有馬ロープウェイ、カンツリーハウスの「六甲山三社会」が運営しています。

まとめ（玉起さん）

レジャーが多様化した現在では、六甲山では施設をつくってお客さんに来てもらって儲けるという従来型の商売は無理だと思います。

本当に六甲山を歩こう、楽しもうという人は、うんと増えています。六甲山に来た人は、思い思いの六甲山を楽しめます。「自分たちの六甲山」を大切に思う人たちが増えているので、六甲山の将来はそんなに暗くないと思います。

参加の感想 寺田 啓さん

今まで知る機会がなかった六甲山の歴史についてよく分かりました。貴重な昔の写真を見て今とは違う人がたくさんいる六甲山を見て感じました。まとめで「今の子どもたちは六甲山に行きたくない」とおっしゃっていました。自然と触れ合う時間が僕の子供時代よりも少ない気がします。



事務局より

六甲山の全ての道を歩かれたという玉起さんの研究ぶりに、驚きました。他所では聞けないお話もたくさんしていただき、あまり知られていない六甲山の開発史についての事情通(?)になれました。今後も六甲山の地域研究に関心を注いでいきます。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ
- ・阪神電鉄の昔の写真

玉起さんの著書『六甲山博物誌』
 神戸新聞総合出版センター 1997年



六甲高山植物園
 玉起 彰三
 〒657-0101 神戸市灘区六甲山町北六甲 4512-150
 TEL : 078-891-1247

◆参加者の声～アンケートより～

- ・年表や注釈で、六甲山の情勢の変化がよくわかった。
- ・暖炉の煙に驚いてしまいましたが、ヤキイモの出来上がりは見事でした。
- ・1月とは思えないあたたかさにとびつりました。

◆参加者：19名（順不同・敬称略）

玉起 彰三 浅井 審一 石田 澄子 岩木美寿雄
 兼定 力 金 俊ケイ 日下部秀夫 桑田 結
 寺田 啓 遠井 方子 堂馬 英二 堂馬 佑太
 中務 勝子 中垣内 博 福永 一登 松井 光利
 村上 定広 八木 浄 山田 良雄